

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 55	提案機関名 神奈川県畜産会
要望問題名 国産濃厚飼料生産への取り組み	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 近年、国際的な貿易環境は激変し予断ができない状況、本県の畜産経営を安定させるためには、飼料の海外依存度を低減していかなければならない。しかし、県内の自給飼料生産技術はある程度確立されているものの、濃厚飼料についての生産技術はほとんど蓄積されていない。本県の気候風土生産環境に鑑みた濃厚飼料生産体系について検討されたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 地域資源を活用したかながわ鶏専用飼料の開発 (H31) 飼料用ダイズとイタリアンライグラスの二毛作体系による飼料生産技術の開発 (H30～R2)		
対応の内容等	<p>濃厚飼料の9割は輸入に依存しています。そのような状況の中、飼料米が国産濃厚飼料として各地で生産されています。また、近年北海道では子実用トウモロコシの生産が開始され、府県においても取り組みが始まり、収穫機が開発・販売されています。技術的な課題については、農研機構で精力的に研究されており、マニュアル^{※1}が発行されています。当所では、平成30年に子実用トウモロコシを生産して「地域資源を活用したかながわ鶏専用飼料の開発」において、かながわ鶏に給与する試験を開始し、本県における子実用トウモロコシの課題について検討します。</p> <p>一方、動物由来たん白質を飼料として利用することができない牛では、たんぱく質資源である大豆油粕やアルファルファ等のマメ科牧草も輸入に大きく依存しています。アルファルファは、国内でも栽培することは可能ですが、本県の火山灰土壌の条件では、土壌改良が必要であり容易ではありません。一方、ホールクロップサイレージとして利用する飼料用ダイズについては、本県においても栽培することが可能であり、当所においても「飼料用ダイズとイタリアンライグラスの二毛作体系による飼料生産技術の開発」において、栽培法等々について検討しています。</p>		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考	※1 子実用トウモロコシ生産・利活用の手引き（都府県向け）第1版 農研機構中央農研センター		